

尼崎市立若葉小学校 平成25年度 学校評価

- 1

教育目標・めざす児童像

・若い芽を伸ばす子＝たくましく（強い体）
・考えを深め合う子＝かしこく（強い頭脳）
・場を美しく、心豊かな子＝やさしく（強い心）
- 2

めざす学校像

・わくわく心がはずむ楽しい学校
・学習の基礎・基本をしっかりと学習できる学校
・地域の人々に親しまれる学校
- 3

めざす教師像

・愛情をもって、全ての子どもの可能性を開く教師
・研修と研鑽に努め、人格と教育技能を磨く教師
・家庭と地域に信頼される教師
- 4

本年度の重点取組

(1) 学力の向上 (2) 豊かな人間性の向上 (3) 健康の増進と体力の向上 (4) 保護者や地域に信頼され、活力に満ちた学校
- 5

本年度の研究テーマ

「自分の思いや考えを持ち、相手に伝わるように表現する子どもの育成をめざして」～伝え合う力（聞く・話す・話し合う）を育てる授業づくり～

学校関係者評価委員会について

委員：学校評議員3名
育友会長・副会長
学校：校長、教頭
開催：第1回 平成25年6月4日（火）
午前10時～11時30分
若葉小学校 校長室
第2回 平成26年3月5日（水）
午後5時30分～7時
若葉小学校 校長室

6 学校評価（自己評価及び学校関係者評価）

自己評価の基準	4：十分達成できた	3：達成できた	2：取り組んでいるが、成果は十分でない	1：取組が不十分である
関係者評価の基準	4：よく取り組んでおり、成果が大きい	3：熱心に取り組んでおり、今後が期待できる	2：取り組んでいるが、成果は十分でない	1：取組が不十分である

(1) 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる

評価内容	具体的な取組	成果・課題等	自己評価	改善策	学校関係者評価委員会での意見
授業の改善に取り組み、学力向上を推進する	・全教員が1回以上の校内研究授業を行い、学び合う教師集団作りを推進。全国学力調査や市学力到達度調査等の詳細な分析を行い、結果を指導に生かした。	・全教員参加の校内研究授業及び事後研究会を通して学びを共有できた。全国学力学習調査や市学力到達度調査等の結果の詳細な分析により、学力向上のための具体的な手立てを探った。	2.9	・学習の理解が不十分な児童について、継続的な指導を積み上げていく必要がある。学年の申し送りでもきっちり伝え、年度当初から継続できるようにすることで着実に伸ばしていく指導を図る。	・小規模校ならではのきめ細かな指導がされている。その結果、学力的に低い位置にいる子どもたちの学力面での底上げがなされている。
校種間の連携に取り組み、滑らかな成長を推進する	・児童の生活や学力面での効果をねらい、教員合同研修や情報交換会、相互授業参観等の小中連携を試みた。	・3校連絡会や訪問指導員等を活用し、生活面でも児童生徒の情報交換を行い、生徒指導面での連携強化ができた。クラブ体験、生徒会の学校紹介、入学前テスト等実施できた。		・三校連絡会での生徒指導間の情報交換や、夏季職員合同研修時の学習指導面での情報交換を一層充実させ、実際に有用なものとする。	・5・6年の学力テストの結果、国語、算数とも昨年度より改善が見られ、特に国語においては、市内平均を超えた。日頃の取り組みの成果が現れている。
特別支援教育の充実に取り組み、自立や社会参加に向けた主体性を育成する	・コーディネーターを中心に、特別な支援の必要な児童に関して全職員で共通理解を図った。新学習システム教員と担任による少人数指導を実施し、個に応じた指導を進めた。	・年度当初及び毎月の職員会等で、児童理解の時間を持ち、特別な支援の必要な児童を全職員で共通理解し、個々の児童に応じた教育支援を図ることができた。		・特別支援学級在籍児童はもちろん、普通学級在籍で支援を必要とする児童の行事への参加の仕方について、事前に全職員に詳細を周知し、更なる共通理解を深める。	（関係者評価：3.0）

(2) 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る

評価内容	具体的な取組	成果・課題等	自己評価	改善策	学校関係者評価委員会での意見
道徳性の涵養に取り組み、良好な人間関係づくりに努める	・道徳の時間を軸として『命の大切さ』を実感させる教育プログラム等の資料を活用し、道徳性を育成を図った。挨拶運動を徹底し、集会活動などでの異年齢集団交流を通して、互いに尊重し合う人間関係づくりに努めた。	・児童集会で縦割り集団活動を行い、異年齢の良好な関係づくりを図った。11月のオープンスクールに全年で道徳人権の参観授業・保護者懇談会を実施した。	3.0	・教師自身自らが規範となり、学校のエデュケーション全体を通じて子どもたちの道徳性の育成、良好な人間関係をつくる態度の育成に努める。	・家庭との連携や地域の力の活用を図り、心を育てる教育を一層進めてほしい。
基本的生活習慣の確立に取り組み、問題行動の未然防止を図る	・家庭との連携・協力の下、基本的生活習慣の確立を図ると共に、問題行動の未然防止を図った。	・生徒指導部による登校指導及び児童会を中心に挨拶運動を推進した。生活実態調査の結果を分析・活用して基本的生活習慣の確立、問題行動の早期発見・早期対応を図った。		・挨拶や忘れ物、遅刻などについて、学級での日常的な指導や家庭への要請などの対策を進める。	・休みがちな子どもに対して、保護者との連絡を密に取る、子どもだけでなく、保護者を支援するため、関係機関との連携を図る等の取り組みを引き続き進めていく。
相談体制の充実に取り組み、不適応行動への早期対応及び長期欠席の抑止・改善を図る	・SSWの活用や、保護者が相談しやすい雰囲気づくりなど相談体制を整えると共に、児童の内面理解に努め、不適応行動等の早期発見・早期対応に努めた。	・SSWを活用し、長欠児童・保護者の相談体制を整えると共に、担任だけでなく生徒指導・管理職を中心に全職員で共通理解しサポート体制をとって、長期欠席の抑止改善を図った。		・長欠児童の欠席状況を把握し、保護者との連携を密に、適切な相談機関（SSW、子どもセンター、医療機関等）との連携を適宜図っていく。	（関係者評価：3.0）
進路指導の充実に取り組み、社会的自立に必要な能力を育成する	・さまざまな行事や体験活動を通して、勤労観や職業観の育成を図った。	・学習や行事・体験活動などさまざまな教育活動を通して、学ぶことや働くことの意義を考えさせ、夢や目標を持てるような指導を推進した。		・学校や地域の特性を生かした学習や行事、体験活動等を通して、適切な勤労観・職業観の育成を図る。	

(3)食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
食育を通じた生活改善に取り組み、望ましい生活習慣を育成する	・食育の推進及び家庭との連携による「早寝・早起き・朝ごはん」運動を通して、望ましい生活習慣の育成に努めた。 ・体育的行事の充実や外遊びの奨励に取り組み、身体を動かす楽しさや喜びを体感させ、体力・運動能力の向上に努めた。	・「食育だより」やお昼の給食放送、「早寝・早起き・朝ごはん」運動等を通して、「食」に関する正しい知識を児童及び保護者に啓発した。	2.9	・「食育だより」や「保健だより」等を通して家庭とも連携し、食に対する正しい知識の啓発に一層努めると共に、望ましい生活習慣の育成を推進する。	・食育や健康を含め、望ましい生活習慣の育成に関しては、本来は家庭が主たる役割を担うべきであるが、学校では保護者への啓発の場を設ける等、家庭との連携を一層進めてほしい。 (関係者評価：3.0)
体育・スポーツ活動の充実に取り組み、体力・運動能力の向上に努める		・「保健だより」等により、健康への関心を持たせると共に、体育的行事を充実させ、外遊びを奨励した。		・25分休みや昼休みに、担任を中心に教師が率先して運動場へ出て、外遊びの奨励に努めると共に体育的行事の工夫と一層の充実を図る。	

(4)安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
安全教育の充実に取り組み、登下校及び校内の安全確保に努める	・保護者や地域、関係機関との連携で通学路の点検や見守り隊等、登下校時の安全を確保すると共に、安全管理員・校門の施錠システムを活用し校内の安全確保に努めた。また校内防犯訓練を実施し、教職員の危機管理意識の強化を図った。 ・地域との連携の下、より実践的な火災・地震・津波の防災訓練の実施及び学校災害対応マニュアルの改善を図り、危機管理能力の向上に努めた。	・年2回の地区活動の実施に合わせ、通学路を点検した。安全管理員・校門の施錠システムを活用し、校内の安全を確保した。全職員参加のエピペン講習会、AED講習会、校内不審者対応防犯訓練を実施した。	3.2	・安全点検等で依頼した箇所は即修理できているが、校舎や遊具の老朽化は年々進んでいる。修理の必要な箇所や危険な遊具も多くなるので、さらにしっかりと安全点検をしていく。	・地域主催の防災訓練に、高齢者と共に保護者・児童の参加も促し、地域全体の連携を一層深めたい。 ・安全点検等により、引き続き校内の修理箇所・危険箇所の把握に努め、迅速に対応していく。 (関係者評価：4.0)
防災教育の充実に取り組み、危機管理能力の向上に努める		・より実践的な火災・地震・津波の防災訓練の計画（年3回実施）及び学校災害対応マニュアルの改善に取り組むとともに、地域防災訓練（4月・5月・2月）に参加し、地域との連携を図った。		・年間通して計画的に防災訓練を行い、また更に見直しをしてよりよいものにしていこうと取り組むことで、安全に対する意識は高まっている。継続していくことが重要である。	

(5) 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
地域資源の活用に取り組み、開かれた学校園づくりに努める	・学校だより・HP・掲示板等により、本校の教育活動を外部に発信すると共に、オープンスクールや行事等、開かれた学校づくりを推進した。地域行事に積極的に参加すると共に、地域人材の活用を図った。 ・学校評議員制度を活性化すると共に、学校評価を活用して全職員で教育活動の成果を検証し、次の教育実践に生かせるよう努めた。 ・常に教育公務員としての使命と責任を自覚し、高い倫理観を培うための研修等を充実し、教職員の資質向上に努める。若手教職員の育成に学校全体で取り組み、教職員の協働体制を整え、学校の組織力向上に努めた。	・学校だより・HP・掲示板等で、本校の教育活動について情報発信した。オープンスクールや行事等では保護者アンケートを実施・集約し、全職員で検討した。	3.0	・参観・懇談への保護者の参加が少ない点は、育友会に呼びかけるなど、参加を促す働きかけをしていく必要がある。地域の人的・物的資源の教育活動への活用を推進する。	・学校が地域・家庭の環境を把握することが大切である。 ・授業参観・保護者懇談の持ち方を見直し、保護者の参加を促す工夫が必要である。 (関係者評価：3.0)
学校評価の活用に取り組み、学校運営の改善を図る		・学校評価保護者アンケートをほぼ全員から回収できた（回収率99.2%）。全職員で学校評価アンケート結果を検討した。学校関係者評価委員会を6月と3月に開催し、学校評価の総括を行った。		・保護者アンケートを工夫するなど一層の学校評価の充実を図り、教育活動等の成果を検証する。PDCAサイクルに沿って学校評価を活用し、学校運営改善につなげる。	
教職員の資質向上に取り組み、学校の組織力向上に努める		・人権研修や指導力向上研修などの職員研修を、講師を招聘して充実させ、教職員の資質向上を図った。若手教職員の育成に主幹教諭を中心に学校全体で取り組んだ。		・OJTによる若手教員の育成を学校全体で更に進めると共に、教職員の協働、学校の組織力向上のためにも風通しの良い職場づくりを推進する。	

(6) 教育目標

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開	・教育目標は全職員が共通理解し、その達成に向けた教育活動を推進。保護者や地域へも学校だより、HP等で広く知らせた。 ・各学年に応じて教育目標を具現化し（学級目標等）、児童に意識させながら、指導の充実につなげた。	・教育目標は全職員に説明し、保護者や地域へも学校だより・HP等で知らせた。それぞれの学年で工夫しながら、達成に向けた取り組みを行った。	3.0	・教育目標を共通理解し、その達成に向けた教育活動をPDCAサイクルにそって、計画的かつ継続的に行う。	・各学年に応じて教育目標を具現化し充実した指導がなされており、成果となって現れている。 ・PDCAサイクルが機能している。継続して行う。 (関係者評価：4.0)
教育目標の具現化と指導の充実		・兵庫型教科担任制を導入し、5・6年生の理科と社会で教科担任制を実施。さらに3年生から6年生まで算数の少人数指導を実施した。市や国の学力調査の結果を分析し、指導に生かした。		・各学年に応じて具現化した教育目標（学級目標など）を児童に意識させながら、指導を充実させる。	

(7)研究テーマ

評 価 内 容	具 体 的 な 取 組	成 果 ・ 課 題 等	自己評価	改 善 策	学校関係者評価委員会での意見
研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開	・研究テーマを共通理解し、全教科を通して言語活動の充実を図った。	・研究テーマに沿って全教員が研究授業・事後研究会を行った。大学講師を招聘し、２度の校内研修を実施すると共に、その大学の研究会に多くの教員が参加し、系統的な研修ができた。	3.0	・研究テーマを全教員が共通理解し、その達成に向けた教育活動を、全体として統一していく。	・全教員が研究授業や事後研究会に取り組み、また大学講師の招聘による研修会を計画的に行うなど、多忙な毎日の中、様々な校内研修が行われている。その成果は、学力面だけでなく、集会活動や委員会活動、スピーチフェスティバル等においても発揮されている。 (関係者評価：3.0)
研究テーマの具現化と指導の充実	・研究テーマを教科に応じて具現化し、児童に意識させながら、指導の充実につなげた。	・研究授業等で学びを深め、全教員が様々な教科において研究テーマを具現化し、児童に意識させながら指導の充実に取り組んだ。委員会活動など教科外での児童の活動においても検証できた。		・一年間を通して、PDCAサイクルに沿った指導の充実を図る。	

※ その他の評価項目 (A：優れている B：適切である C：おおむね適切である D：要改善)

アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	A
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B